



栽培のポイント ダイコンの病症害

—症状・原因・対策—
担当：開発部 寺田 保


チップバーン(カルシウム欠乏)

	発生時期	夏～秋の収穫時期に多い。
	症状・原因	①白菜、レタスなどのチップバーンと同じ条件で発生する。 ②大雨で根が傷みその後の高温で発生初期の葉に症状が出る。 ③根が回復してから成長してきた葉には症状が出ない。
	対策	①水はけの良い畑作りと中耕によって土中に酸素を供給して発根を促進する。 ②カルシウムとマグネシウムを葉面散布して被害を軽減する。


モザイク病(ウィルス)

	発生時期	夏～秋の収穫時期に多い。
	症状・原因	①ウィルスによる病害。 ②発芽から本葉5枚頃にウィルスを保毒したアブラムシが媒介して感染する。 ③葉にモザイクを生じ、部分的に組織が枯死して褐色の斑点ができる。 根が変形することもある。
	対策	①アブラムシが媒介するため殺虫剤を散布する。 ②畑の周りにイネ科作物を栽培して、ダイコンに病気を引き起こすウィルスを抑制する。 ③シルバーマルチを利用してアブラムシの飛来を防ぐ。


黒心症

	発生時期	夏の収穫時期に多い。
	症状・原因	①生育後半に地温が22℃以上の高温が続くと、根の内部が黒色に変化する。 ②辛味、苦味が強く、食味が落ちる。 ③ホウ素欠乏を起こすと激発する。
	対策	①ホウ酸を施肥する。 ②高温期の栽培は地温を上げない白黒、シルバーマルチを使う。 ③透明、黒マルチは播種後30日以内に除去する。 ④生育期間が長くなると症状が激しくなるので、Lサイズを中心に早めに収穫する。

空洞症

	発生時期	高温期、低温期の播種で発生しやすい。
	症状・原因	①生育初期の地温が高すぎたり、低すぎたりしたときに発生しやすい。 ②大雨で土が固まって、根の活力が無い場合も発生する。
	対策	①低温期は保温と土壤水分の保持とリン酸、苦土などのミネラルを多めに施し細胞分裂を促進する。 ②高温期は窒素過多にならないようにケイ酸、苦土などを施す。

黒ヒゲ症

	発生時期	周年
	症状・原因	①ヒゲ根が黒く変色してくる症状。 ②ヒゲ根の組織に沿って、根の中心に向かって黒く変色する。 ③生育初期に乾燥が激しいと発生しやすい。
	対策	①病原菌は不明で、今のところ対策方法も不明。